

TOTO

あしたを、ちがう「まいにち」に。



TOTOグループ

統合報告書

2021

サプライヤー様とともに



TOTOグループでは、サプライヤー様を社会や地球環境に貢献し、共生・成長していくためのパートナーであると考えています。サプライヤー様とともに、人権を含めた社会課題や環境に配慮し、公平・公正な購買活動を通して、お客様にとって価値のある商品とサービスを提供していきます。



株式会社 近江物産
代表取締役社長

芝原 誠二様

大切な資源である
プラスチックを価値ある
再生材として提供

近江物産は、1977年から約40年にわたってプラスチックの再生事業に取り組み、「再生 プラスチック材料」の商品規格を設定し、必要な材料の配合を行い、主にペレット材として品質保証しながら必要な市場に供給しています。循環型社会に貢献する企業として、地球環境を永遠に引き継ぐことが責務だと考え、循環型社会の実現に向け、大切な資源であるプラスチックを価値ある再生材として、社会に提供しています。事業を通じて、SDGsのゴール12「つくる責任・つかう責任」などにも貢献していきたいと考えています。

同時に、ものづくり企業として、安全第一を優先し、品質面については、工程の標準化や、品質管理検定の導入など社員の意識向上に努めています。

TOTOは、何事においても真摯な取り組みをされている企業と感じています。長期間の使用に耐えられる品質を実現するために、再生材の提案をしてから約2年の開発期間を経て、一緒に新たな再生材を開発することもできました。TOTOのものづくりの考え方などを知ることができ、刺激となり、また成長にもつながっています。

これまで廃棄されてきた廃プラスチックを再生材として再資源化する動きが注目を集めていますが、消費者に近いメーカーが積極的に取り組むことで、世の中の環境に対する意識も変わってきます。TOTOのような生活に根付いた商品を扱うメーカーが、再生材を積極的に使用することで、循環型社会の構築が一層進むのではないかと考えています。

社会や地球環境に貢献し、共生・成長

CSR 調達の取り組み

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、従来の集合形式による方針説明会やオンサイトでのCSR監査の実施が難しく、代替としてウェビナー形式による方針説明会やリモートによるCSR監査など、サプライヤー様との新しい対話の手段を試み、コミュニケーションを継続しました。世界各地でサプライチェーンの分断が起こった中でも、TOTOが生産を継続できたのは、サプライヤー様との強固な信頼関係によるものと考えており、今後もサプライヤー様とともに、人権や労働慣行、安全衛生、環境配慮などのCSR活動を通じ、相互理解を深め、共生していくことを目指します。



サプライヤー様方針説明会

サプライヤー様
遵守項目の基準達成率

2020年度実績

100%

生物多様性に配慮した調達活動

土石原料についての基準を設定し、すべての鉱山を対象にアンケートやヒアリングを実施しています。この調査により、採掘完了区域において森林などの再生に取り組んでいるか、採掘および粉砕くずなどにより河川や湖沼の汚染が起さない取り組みを実施しているかなどを確認しています。この結果、全鉱山での基準達成を確認できました。今後も生物多様性に配慮した調達を行い、サプライチェーン全体で取り組み、レベルアップに努めていきます。



土石原料の鉱山

鉱山遵守項目の
基準達成率

2020年度実績

100%